

平成22年度 第1回がまごおり協働まちづくり会議 会議録抜粋

日 時 平成22年 4月16日(金)

14時00分～

場 所 蒲郡市役所 新館5階 庁議室

参加者：和泉会長、金子副会長、西川委員、尾崎委員、水野委員、山本委員、小林浩子委員、小田委員、藤田委員、小林憲三委員  
(事務局) 竹内、酒井、小山、石川、森

1 開会

2 会長挨拶

10日に無事審査会が終わり良かった。各部門で課題がまたでてきたので、来年度に向けて議論したい。

3 議題

1) 助成金について

ア) 平成22年度助成事業審査結果

(事務局)

資料「平成22年度市民企画公募まちづくり事業助成金<ほとばしる情熱支援部門>事業一覧」の説明。

(会長)

審査員5名50点満点で採点。250点のうち6割(150点)を基準点としている。チャラボコ保存会が何も書かれていないのは基準点に達していないため。

(事務局)

資料「平成22年度市民企画公募まちづくり事業助成金<はじめの一步部門>審査結果一覧」の説明

3月18日、書類だけでは不備なため、各団体にヒアリングを行い審査会を行った。審査員は4項目10点満点で採点し、審査員は4名で160点満点。160点の6割(96点)が基準点。

申込金額と助成決定金額が異なった団体は、手作り紙芝居の会とパソコンクラブこごみ。手作り紙芝居の会は助成対象経費としてスカーフとジャンパーがあったが、ヒアリングを行い今回は対象外。パソコンクラブこごみは助成総額が50万円なので上位5団体で43万円に達したので7万円の助成金額になった。<はじめの一步部門>はいつでも助成金が受けられるように申し込み期間を9月30日までにしてはいたが、いっぱいになったため締め切る。

(会長)

今後については？

(事務局)

各団体の新しい関係を築くため、4/27 19時30分からまちづくりセンターで意見交換会を行う。両部門同時開催で活動等を報告する。

イ)平成23年度助成事業について

・事業内容の個別精査

(事務局)

<ほとぼしる情熱支援部門>については申請内容を個別精査して減額を行わなかったが<はじめの一步部門>は行ったので、今後どのようにしたらいいか。

(会長)

助成対象の質をきちんと決めなければいけないのではないかと。

(副会長)

<はじめの一步部門>の相談では、予算を記入してくる団体とそうでない団体がいた。実際には目的とやることと支出がつながっているかどうか、結果的には変わってない団体がほとんど。センターが審査員ではないのでアドバイスがなかなか反映しない。

(会長)

助成対象外になっているものがあつた。今まで議論してきたが、条件をつけて飲み物を認めるとしてきたが、何かいい方法はないか？

(委員)

いい企画書が予算の中に対象外のものが含まれているので、助成されないのはどうかと思う。基準外対象を明確にした方がいい。

(会長)

基準をきっちり決めすぎてしまうと審査も大変になってしまうので緩やかにしたらどうか。

(副会長)

未登録の団体が相談に来てくれてよかった。

広域地域にエントリーする団体か蒲郡市にエントリーする団体か、これは対象内経費か対象外経費か考慮しなくてはならない。

蒲郡市で他にも助成金を出しているところもあるので、そういったところにも意見を聞きながらがんばっていききたい。

(委員)

自分の思いを原稿化するのは大事なことだと思う。これからどんどんステップアップしていけばいいと思う。

(会長)

事業内容の個別精査については当面このままでいけばいいのかと思う。

(事務局)

事前のアドバイスはセンターが行っている。事務局はアドバイスを行っていないのに、書類審査は行っている。その点ではどうか？

(委員)

中間支援センターの中に行政が入らなければいけないのではないかと。市民に対するアド

バイスができるようになればこのような課題が減っていくのではないか。行政サイドからの支援がもっと必要ではないか。

(事務局)

センターの中に行政職員が相談の期間に常駐するのか、その部分の経費を余分に負担するのか。

(委員)

どちらでも構わないと思う。専門的な部分は委嘱してもいいと思う。

(委員)

せっかく活動を始めようと思った団体が、対象外経費等によって助成を受けられないことは、非常に残念だと思う。柔軟性がありオープンな枠組みの方がいいと思う。

(会長)

今までの意見を聞いてセンターの役割を議論していかなければいけない。

(委員)

書類を提出する側からいうと、全く書類に関しては無知の状態。アドバイスは必要だが、提出する側にもポリシーがある。特に<はじめの一步部門>は数人から始まって助成の意味も分からない人が多いと思う。申請書が開示できればそれを見本に作成できるのではないかと思う。

(会長)

申請書の開示は申請団体に承諾を得ることが可能か？

(事務局)

申請書の中に開示することもありますと書いてある。

(会長)

記入例として開示するのは別で、相手に承諾を得る必要がある。

(委員)

モデルマニュアルを初めて読む人にも分かるように作るべき。何年度までにモデルマニュアルを作ると決めて、その年には予算を組むようにする。何年後かには改正版を作る必要はあると思う。

(会長)

開示を前提にマニュアルができるか検討してほしい。

- ・ 基準点
- ・ はじめの一步の募集終了
- ・ はじめの一步の審査方法

(事務局)

<ほとぼしる情熱支援部門>は1団体が基準点以下、<はじめの一步部門>は全部の団体が基準点を越えた。今後の基準点のあり方は？

(会長)

今回は基準点を先に決めて6割にした。今回は助成する団体が1回で決まってしまった。

(事務局)

基準点をもう少し上げたほうがいいのか？

(会長)

基準点は次の審査方法に関係してくる。

基準点は6割でいいと思うが基準点に対してどう審査していくかが問題ではないか。

(委員)

その時々に変化するのではなくて基準点ははっきり決めておいた方がいい。

(委員)

どこまで審査のレベルを揃えたらいいのか難しい。

(委員)

採点した結果、どれくらい上下の差ができたのか。差をどう埋めるか。

(会長)

<ほとぼしる情熱支援部門>はプレゼンがあったのでまだいい。<はじめの一步部門>は今回あまり差がなかった。

(委員)

それならいいのではないか。

(事務局)

<はじめの一步部門>では今回分からないところは事務局がヒアリングを行った。プレゼンではなくて集団面接を行っているところもあるがどうか。

(会長)

審査をした立場からいうと、書類だけよりも聞いたほうが熱意も伝わる。

(事務局)

審査でパワーポイントなどを使って行くと負担が大きいと思い書類審査のみを行った。

(委員)

書類をまとめる方が大変かと思う。聞いた方が答えやすいのでは。

(委員)

お金の使い道がいいのかどうか事例を示したほうがいい。

(委員)

ヒアリングがあった方が出す側も出しやすいのではないか。

(会長)

平成23年度以降のことについては次回以降も話し合っていく。

## 2) 食育プロジェクトについて

(委員)

アンケートの結果を踏まえて、食育プロジェクト事業計画案を作成した。

~資料 平成22年度食育プロジェクト事業計画案 説明~

(会長)

今年度のスケジュールを考えるといい。

(事務局)

各担当課が担う役割をはっきりする。

(和泉会長)

重要なのはいかに行政側を同じ土俵に持ってくるか。

(委員)

まちセンなどの団体には関わってもらおう予定だが、他にどこかあれば教えてほしい。

(委員)

保健センターに食生活の勉強をしている「ヘルスマイト」がある。今年度は食育をテーマにして学習会をやっている。栄養士の千賀さんが主になり、ヘルスマイトの会員もボランティアで参加し小中学校にも行く。

(会長)

今回の〈ほとぼしる情熱支援部門〉にも食育をテーマにした団体もある。

(委員)

できれば個人で、委員になって参加してくれると有難い。

(会長)

次回までに間に合えばメンバーを決めて、スケジュールを決めるといい。

### 3) 提案制度の検討

(事務局)

～蒲郡市共同提案制度にかかる検討資料の説明～

～提案制度要綱(案)の説明～

(会長)

提案制度要綱(案)の「6. 提案募集期間 ・ 予算を伴う事業と ・ 予算の伴わない事業」とは？

(事務局)

予算を伴う事業とは事業を行うときに予算が必要となってくる事業。予算を伴わない事業とは経費が発生しなくて市が持っている資源を活用することによって事業が成り立つ。

(例：河川の清掃を行政が年1回行っている中で、市民団体はもっと行いたいという時に市が県に申し立てる。そういった場合は市の予算は使わない。)

(会長)

予算を伴う事業は税金を使うのだから、しっかりやっていかなければいけない。NPOが様々な活動を行いたいのだが、市を通さないとできない活動がある。その時に一緒にやってほしいというのが提案事業。

(事務局)

音楽を通じてまちを活性化したいという団体がいて、その活動の拠点として蒲郡駅周辺で行いたいということで、予算は使わないが行政の力を借りて活動を行った。

(事務局)

音楽のまちづくりでは行政がさまざまな場所で活動を行って欲しいという希望と、音楽を発表する舞台を作りたいという市民団体の希望が合致した活動。

(副会長)

音楽のまちづくりだが、できれば成果まで結び付けたかったが提案制度がはっきりしなかったので助成金の中で実施して音楽のネットワークが広がった。

前例がない事業は一緒に事例を作ろうということで、駅周辺でどれくらいの音量で行っても大丈夫か、ルールを守らない団体が入ってきたらどうするのかなどを、どの団体と行

ったらルールができるのかわからない。提案制度であがってきたときに、行政側（まち）のメリットと活動団体のメリットとの両方考えれば提案制度までいけたのではないかと思う。

（会長）

来年度の募集にあわせて今後検討していく。

#### 4 その他

（事務局）

4/27 に意見交換会を行う。今年度は助成団体同士がどのような活動を行っているかを知る機会を増やしたい。

次回は 6/7 14 時～16 時。